

上半期総括と下半期の取組み

代表取締役社長
小林 敬一

2017年11月2日
古河電気工業株式会社

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

■ 上半期総括

- 対前年及び前回予想比でも増収・増益を達成
- 特に、全ての事業セグメントで、前年と比べ増収・増益で着地

■ 下半期状況・取組み

- 情報通信と機能製品セグメントは、顧客の在庫調整や競争の激化などでやや厳しいものの、自動車部品・電池セグメントは好調
- 低採算事業・製品の改善は着実に進展

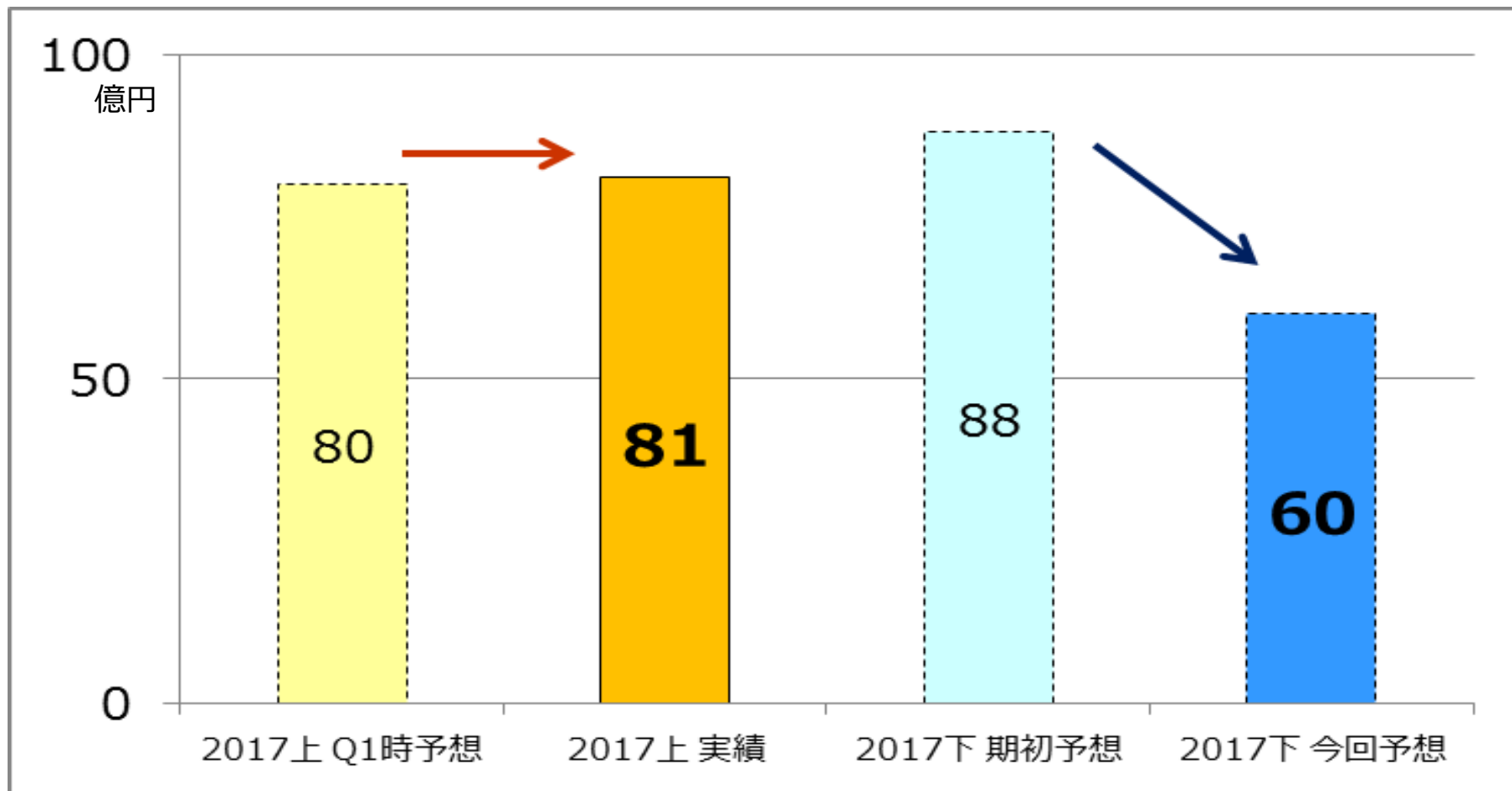
(単位：億円)

＜上半期＞	16年度実績	17年度前回予想*	17年度実績	前年比	前回予想比
	売上高	3,976	4,500	4,575	+599
営業利益	133	205	218	+85	+13
営業利益率	3.3%	4.6%	4.8%	+1.4	+0.2

＜通期＞	16年度実績	17年度前回予想*	17年度予想		
			H 1 実績	H 2 予想	通期予想
売上高	8,433	9,150	4,575	4,675	9,250
営業利益	386	430	218	212	430
営業利益率	4.6%	4.7%	4.8%	4.5%	4.6%

* 前回予想：Q1発表時に上期のみ見直し（下期は期初予想を据え置き）

- 上期の営業利益は、ほぼ予想値並みで着地
- 一方、下期は、光ファイバ・ケーブルとデジタルコヒーレント関連製品で、予想に対し下振れの見通し




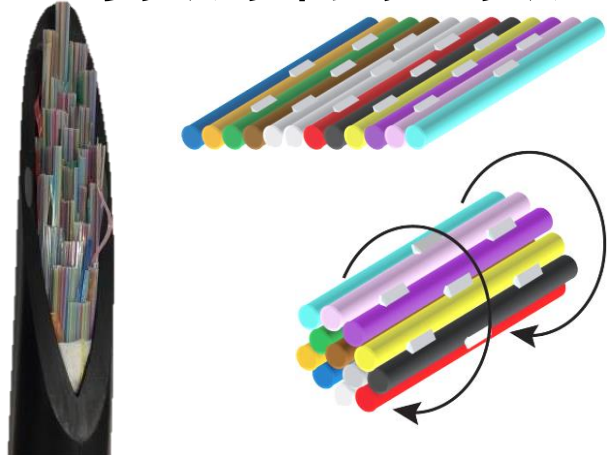

<光ファイバ・ケーブル>

- 北米通信業界再編等の影響で、下期は北米の顧客向け光ケーブル出荷が一時的に減少する見通し
- ただし、データトラフィックの増加に伴う通信インフラ投資（巨大データセンターやエッジデータセンター増設などを含む）により、当社グループが強みを持つ欧米市場等の堅調な伸びは継続する見通し
- 当社グループは、顧客との長期契約などを背景に中長期的視点に立って増産・コスト競争力の強化を継続

<ファイテル>

- 年度初めより、中国市場の調整局面の影響で、デジタルコヒーレント関連製品（ITLA*）の売上減が継続
- 今年度4Q頃からの緩やかな回復を見込み、次世代製品への対応や顧客層の拡大を図っていく

*ITLA（光デバイス）：デジタルコヒーレント用アクティブ光部品における当社主力商品

事業	注力製品	用途	主な顧客層	主要エリア
光ファイバ・ケーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・海底ケーブル、長距離用低損失ファイバ ・構内/宅内用低曲げ損失ファイバ 	通信事業 映像伝送 データセンタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信キャリア ・CATV事業者 ・OTT 	欧米、南米、 東南アジア
	<ul style="list-style-type: none"> ・ローラブルリボンケーブル 	通信事業 映像伝送 データセンタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信キャリア ・CATV事業者 ・OTT 	国内、北米

需要に応える光ファイバ群

海底用 新ファイバ
400G伝送対応
世界最高水準の
低損失とAeff達成

MDU/IHW
AllWave FLEX Max
EZ-Bend

TeraWave SLA+
TeraWave ULA
TeraWave SCUBA
Transoceanic

AllWave® *
AllWave® FLEX
AllWave® FLEX +
Metro Edge
AllWave® *

Demanding
LANs/SANs

LaserWave FLEX
LaserWave FLEX WB

Metro Access
AllWave® *
Premises
LaserWave FLEX
AllWave FLEX
AllWave FLEX +

データセンター向け
波長多重対応の
新マルチモードファイバ



Long Haul
TeraWave
TeraWave ULL

Regional
TrueWave® REACH
TrueWave® RS/LA
Metro Express
TrueWave® RS/LA

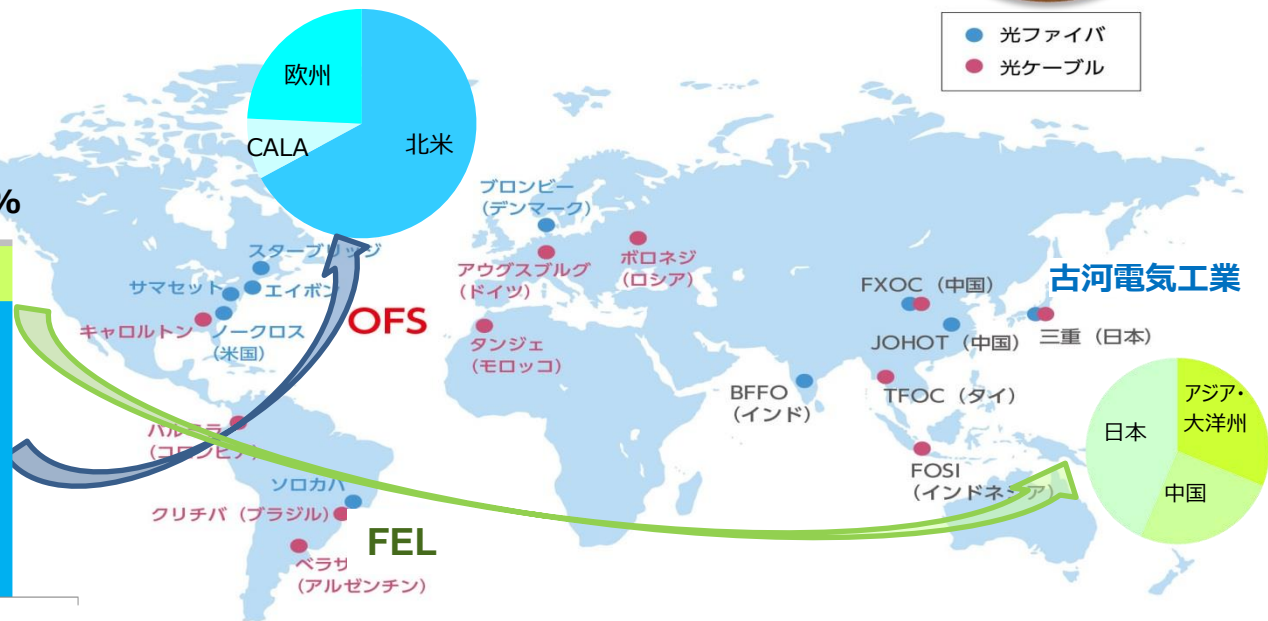
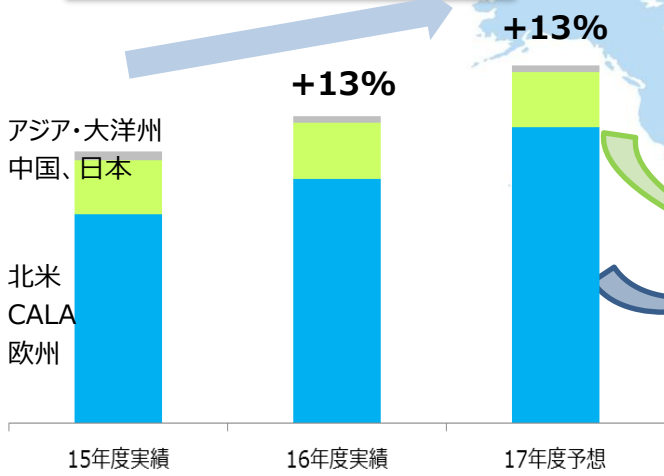
陸上長距離用
低損失新ファイバ
400G伝送対応

* AllWave® には、AllWave One、AllWave +、AllWave LL、Standard AllWaveがある

強い需要見通し・成長地域への拠点展開
優良顧客との強固な関係（ブランド）を堅持

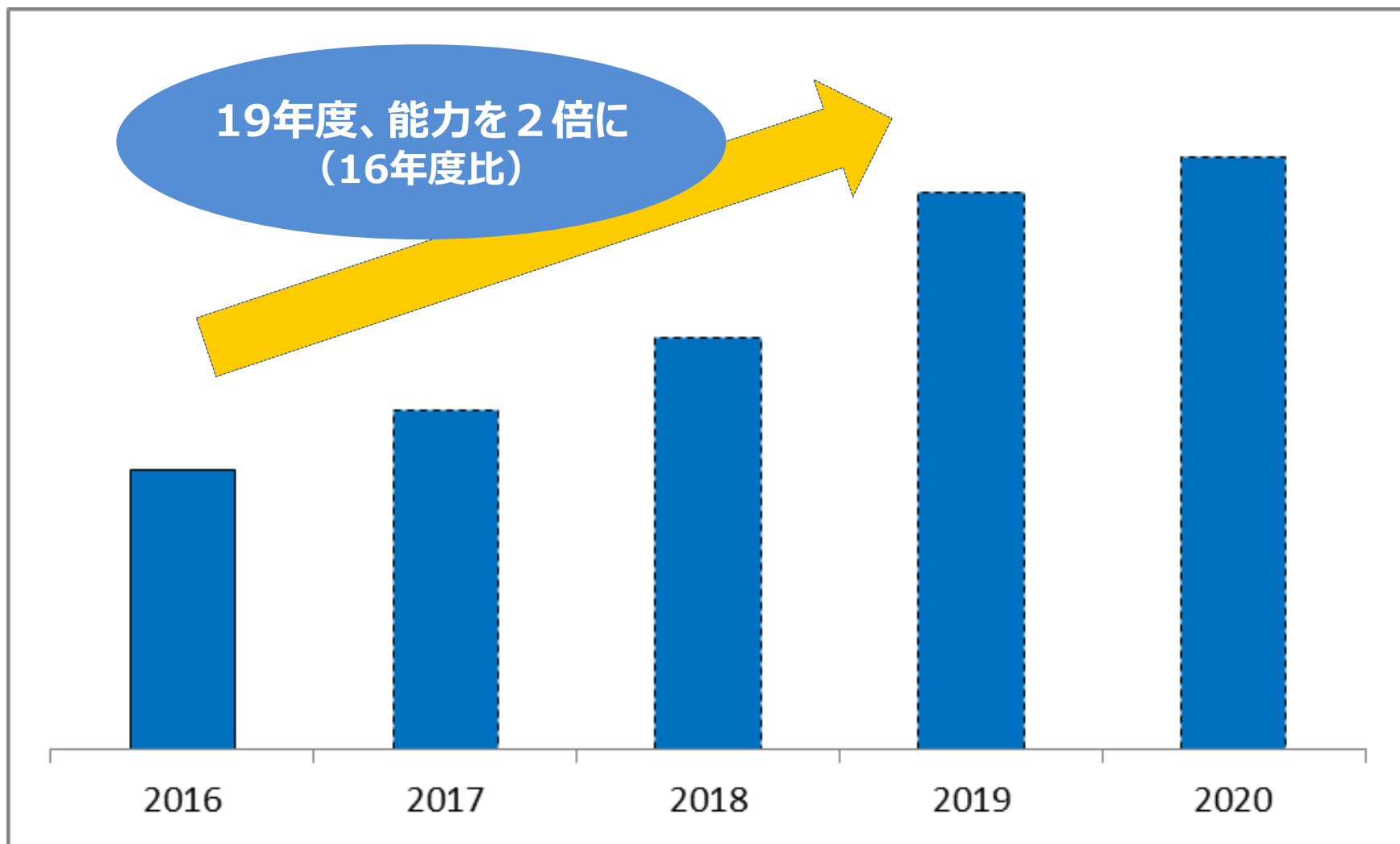


光ファイバ出荷数量
(前年比伸び率)



円グラフは16年度の出荷数量構成比

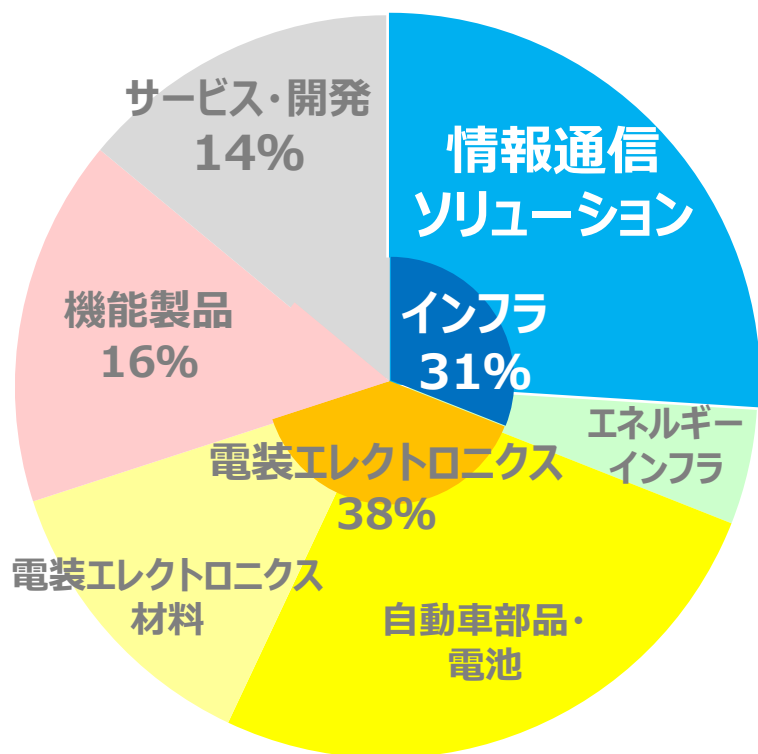
顧客要望・市場成長に合わせ、生産能力を拡大



光ファイバ及びケーブル生産能力拡充のため、追加投資を決定

全社設備投資（予想）

16-18年度累計：1,100億円

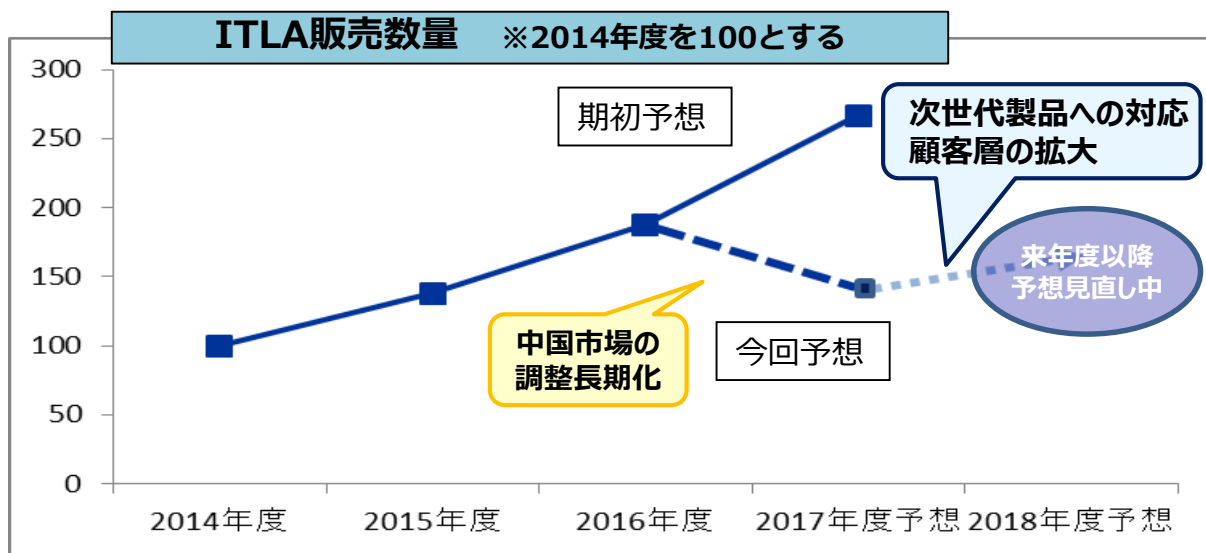


+

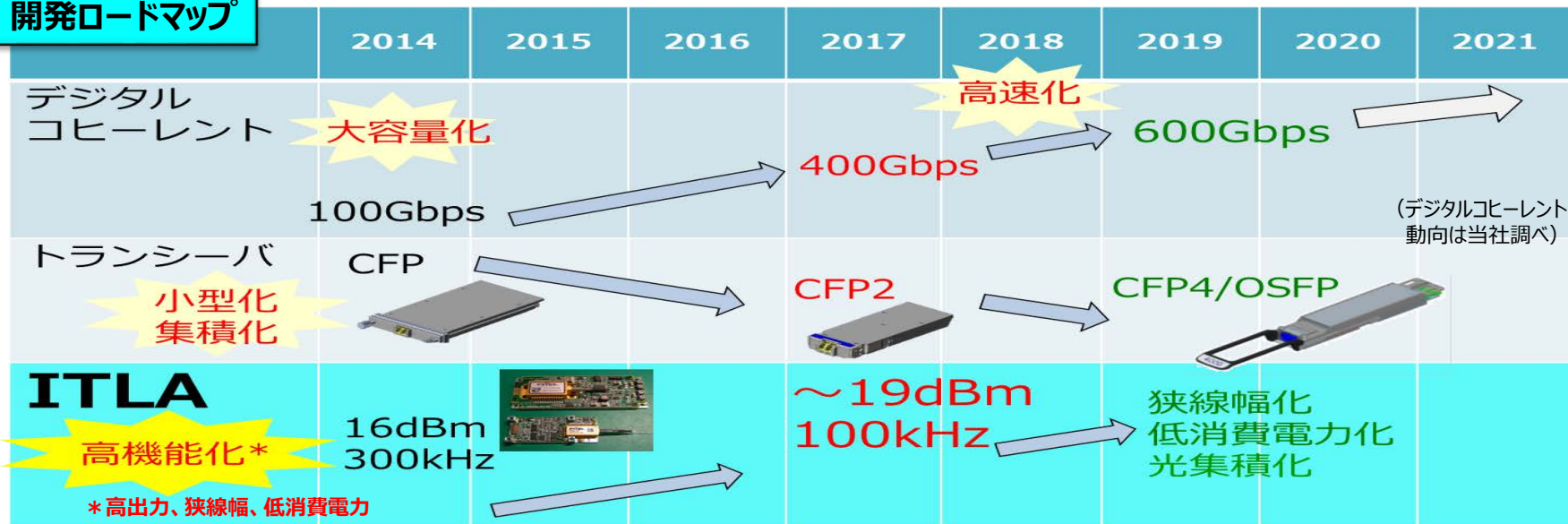
17～19年度
光ファイバ及び
ケーブル追加投資
約150百万米ドル
(約165億円)

※情報通信ソリューションの設備投資には、光ファイバ、ケーブル以外への投資も含む

当社のITLA販売数量見通しと開発ロードマップ[®] **FURUKAWA ELECTRIC**

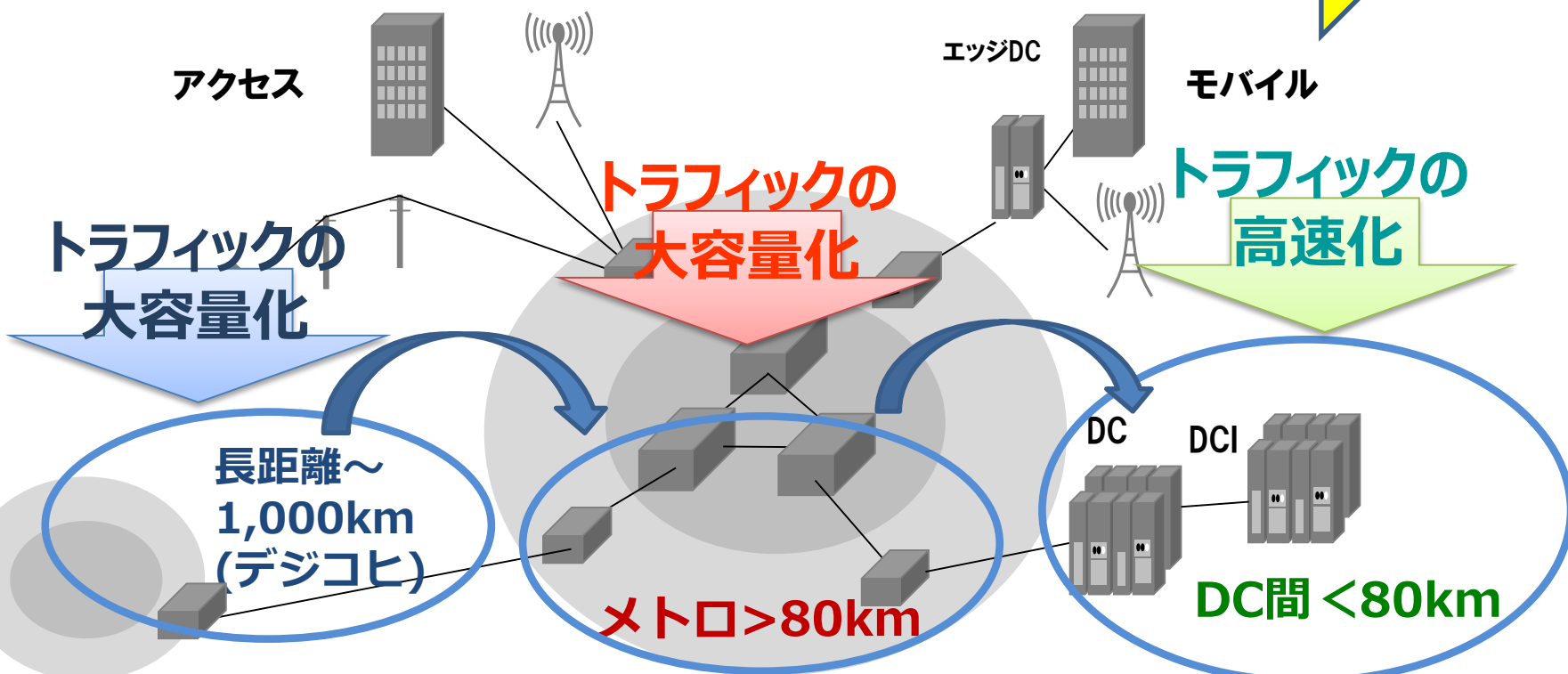


開発ロードマップ[®]



通信トラフィックの大容量化に伴うメトロ領域への拡大に加え、
高速化によるDC*間領域への拡大により、今後も更なる市場成長が期待

デジタルコヒーレント方式の拡張



* DC : データセンタ

(当社調べ)

低採算事業・製品の改革 <5/24 中期計画進捗説明資料より>

- 事業資産営業利益率の導入により、事業・製品毎の収益ターゲットと時間軸が見える化。低採算事業・製品改善のスピードを向上

*Q1決算発表時に営業利益を期初予想370億円から修正

	2015年度実績	2016年度実績	2017年度予想*
事業資産 営業利益率	9.1%	12.1%	12.9%
営業利益	271億円	386億円	430億円
事業資産	2,982億円	3,196億円	3,335億円

<低採算事業・製品群への対応事例>

16年度 実施済	情報通信	(ファイテル)	・光アンプ撤退 (一部除く) ・光エンジン撤退
	エネルギーインフラ	(産業電線・機器)	・国内部品拠点集約 ・バスダクト(中国市場)撤退
	自動車部品	(W/H)	・華北拠点の集約
	電装エレクトロニクス材料	(金属加工)	・日光拠点閉鎖
対策 実施中	情報通信	(ファイバ・ケーブル) (ファイテル)	・東南アジアでのソリューション事業への転換 ・パッシブ部品協業 (17/4合併会社化)
	自動車部品	(W/H)	・インド拠点の集約
	電装エレクトロニクス材料	(銅管)	・冷媒配管事業の製造拠点集約
	機能製品	(銅箔)	・汎用箔縮小

汎用箔から高機能箔へ 製品ミックスの改善により、収益を改善

利益額の伸び（回路用銅箔）

高機能箔
2倍以上
(2015年度比)

回路用銅箔全体
約1.5倍
(2015年度比)

2015年度実績 2016年度実績 2017年度予想

主なターゲット：サーバー・ルーター・モバイル機器市場

・情報通信データの高速大容量化に貢献



銅箔外観



製品適用例
(メイン基板の内層に使用)

機能製品セグメント* 営業利益(億円)

* AT・機能樹脂、サマール・電子部品、メモリディスク、銅箔

85

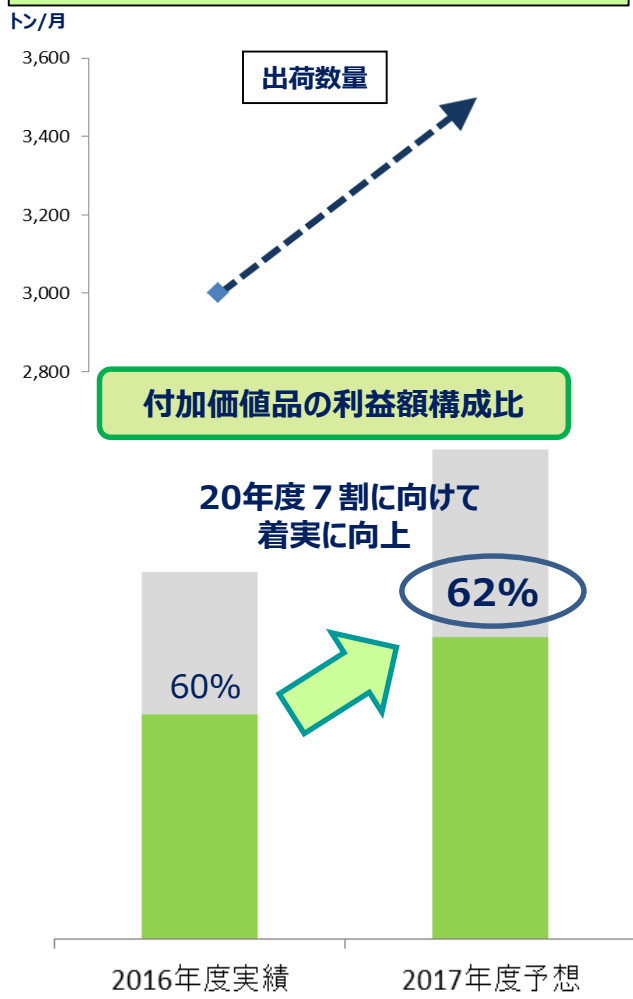
117

130

2015年度実績 2016年度実績 2017年度予想

製品ミックスの改善と車載・インフラ関連市場向け中心に増販を推進

出荷数量と製品ミックス改善推移



主なターゲット市場

コネクタ市場

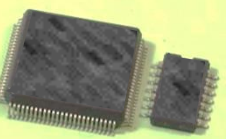
- ・高強度かつ高導電材料
- ・薄板対応 (t=0.06, 0.08mm)

USBコネクタ

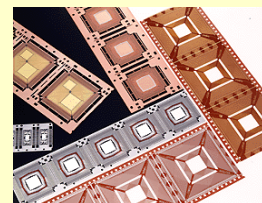


リードフレーム市場

- ・低残留応力材
(リードのソリ・曲り・シフト小)
- ・非磁性材料 (ノイズ発生抑制)

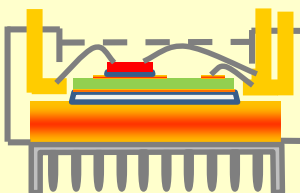


ロジック半導体



パワーモジュール市場

- ・耐熱特性
(DCB基板、ヒートスプレッド)



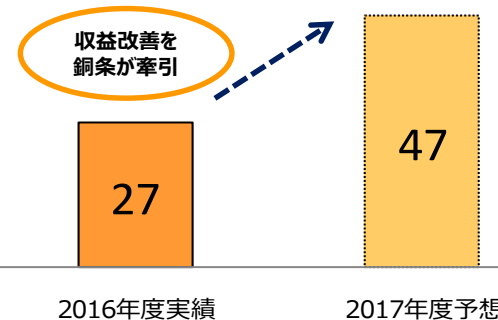
パワー半導体



DCB基板

電装以外の材料セグメント* 営業利益(億円)

* 銅条・高機能材、導電材、巻線、銅管



各事業・製品の収益ターゲットを見据え、着実に成果を積み上げ

(億円)

(主な改善成果)

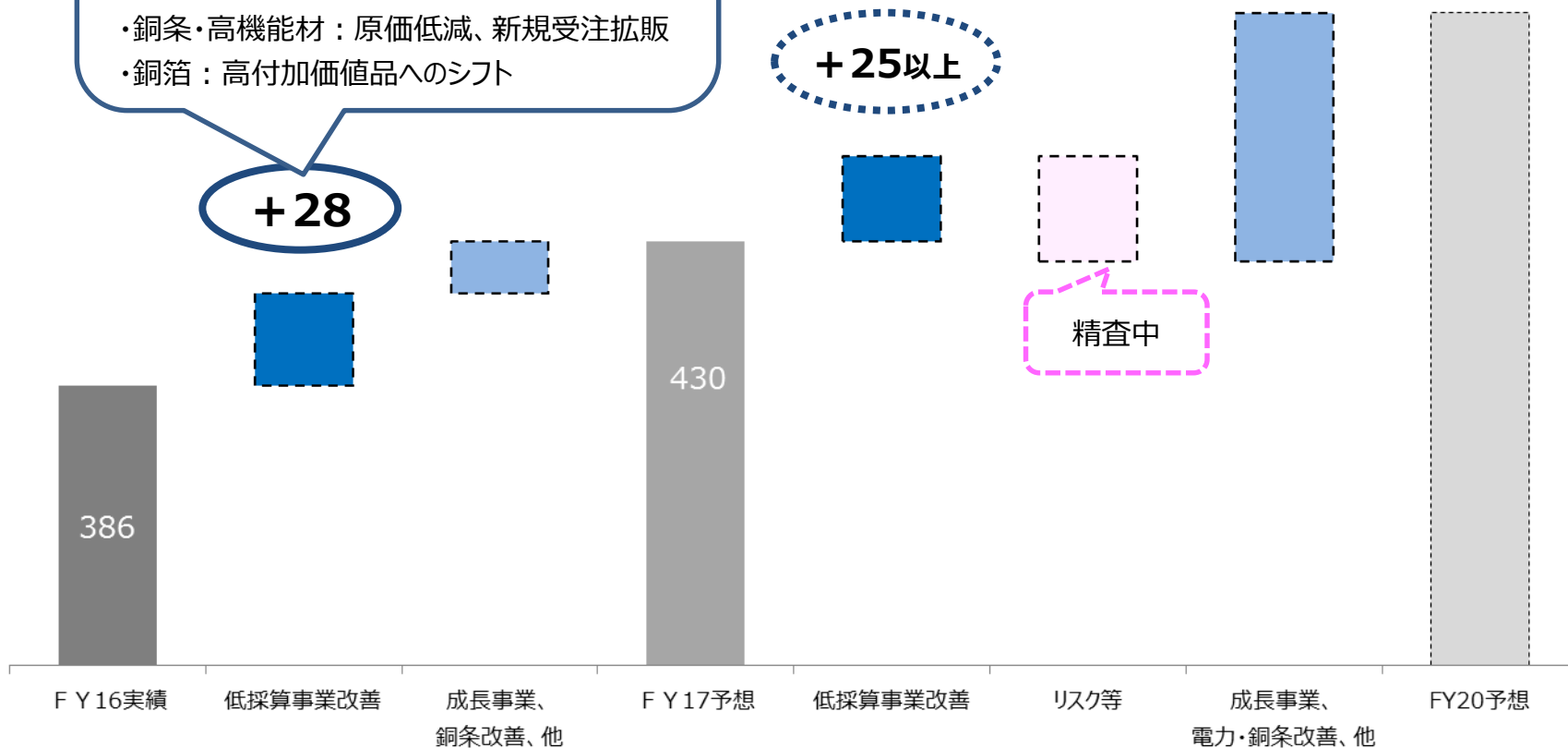
- ・ファイバ・ケーブル：国内光ケーブルの市況改善に合わせた対応力強化
- ・ファイテル：パッシブ部品協業による改善
- ・銅条・高機能材：原価低減、新規受注拡販
- ・銅箔：高付加価値品へのシフト

+28

さらに改善取組みを加速

+25以上

精査中



ご清聴ありがとうございました。

Bound to  ***Innovate***